

Academy that develop the next-generation of talent by Consulting (ATDNGT)

指導・育成方針について

1. 基本方針

ミッションは、社会で活躍し貢献出来る人材育成。ヒューマニティーを有する多様な人材を輩出する事を基本とする。

2. 指導・育成方針

(1) 各種学術的知見（ニューロサイエンス、心理学、解剖学等）や、人材育成マネジメント理論に基づき指導育成するものとする。

(2) 人材育成偏の特徴

1) スポーツや学習体験を学術論（ニューロサイエンス（知覚・筋肉・骨・運動、心理学）として、どのように脳と体が知覚（記憶）していくのかを学び振り返る事で、より明確に行動出来る状態を得られる。

過去の生徒がどうして短い時間で目的を達成出来たのか、学習題材とすることで自らに置き換えて学習効果を上げる。

人生成功哲学（歴史上の偉人や心理学者等の著書）を学ぶことでより豊かな人生が歩めるような状態を目指せる土台が出来ます。

（人生成功哲学は当アカデミー卒業後、社会人の時に再度振り返る事を推奨。）

2) 学術論を Business Design（起業家精神の醸成）へ Learning Transfer※1させ、実用的な定着の手法により学びを深めます。

※1（人材育成用語での転移学習を意図します。）

3) Business Designでの学び（今後、どんな業界が発展するのか、自らのやりたい事は何か、それをどうやって成し遂げるのか等）は、Financial Schoolで経済と金融知識に結び付ける事で、今後の人生での資産形成（運用）に繋げる迄のストーリーを体系的に学ぶ。

4) 当アカデミー卒業時には、生徒自身はもとよりご家族の人生をより豊かなものになるよう人材開発を行います。

★★ 人材育成偏のニューロサイエンス偏、Learning Design等は本来、指導者向けコンテンツの一部でも有るので、親子或いは社会人の方が受講頂いても大変ご満足頂ける内容となっており、受講者からは高い評価を頂いています。

（脳科学関連従事者（脳外科医含）、心理職者、人口知能研究者、理学療法士、栄養士等が一部専門機関で習得するコンテンツが含む。）

(3) 人材育成偏受講前迄の推奨事項

1) 各種スポーツスクールや部活動経験（文化系含む）を強く推奨します。
本著作権は、ATDNGTにあります。無断複写・無断転載を禁じます。

- 2) 学習塾経験だけでも受講可能ですが、どうやって勉強してきたかの振り返りが具体的に出来るレベルである状態が望ましいです。学校や塾の成績（点数）は特に影響はありませんが、義務教育卒業レベル（人の話を聞く、学ぶ姿勢、目的意識、ノート（記録）を取る（振り返る事が出来る状態）、コミュニケーション能力があるレベルであれば十分、人材育成偏を受講可能です。
- 3) サポート体制（生徒が高校生の場合）として、人材育成偏のプログラムは生徒により難易度が高い可能性もあるため、そういった生徒には大学1年生（19歳になる年度末）迄、無償サポートさせていただきます。但し Financial School のサポートは除外。

(4) 人材育成偏（詳細内容は Web サイトを優先します）

1) Human Design

- ①学力と経済学
- ②発達心理学
- ③スポーツにおける対人スキル向上
- ④ニューロサイエンス（脳科学）入門
（運動・知覚・記憶・骨・筋肉・脂肪、引き寄せの仕組み
マインドマップの仕組み等、マインドフルネスと心理学）
- ⑤Learning Design（基礎編、スポーツ偏、学術偏）
- ⑥Anatomy（解剖学アプリを使った動画学習がメイン）
- ⑧人生成功哲学（自己啓発、心理学）
- ⑨リーダーシップ（共感力、サイコロジカル・セーフティ等）
- ⑩アウトプット（母校（中学校想定）の部活動へ参加）
ワークショップ ①②

※学習時間目安：6日間程度

2) Business Design（社会課題解決：MVV）

- ・第1編：経済とは
 - ・経済活動と景気とは
 - ・インフレとデフレのポイント
- 第2編：アントレプレナーシップ
 - ・成功者の Business ビジョン
 - ・起業家精神（アントレプレナーシップ）との関連性等
 - ・（自らの）知識や歴史
 - ・data、強みと弱み 等
- 第3編：Business モデル
 - ・実在モデルからの学び（過去、現在と未来）
 - ・スポーツ偏（記録）の振り返りを行い、課題解決力、

本著作権は、ATDNGT にあります。無断複写・無断転載を禁じます。

発見力 等

第4編：商品メニュー開発

- ・心理学×運動記憶での商品開発例
- ・社会課題解決 work shop

【起業アイデア：フレームワーク】

第5編：雇用と組織作り、税金

- ・労働者、経営者、株主、資産家、起業家、知的財産権 等

第6編：Business コンテスト

- ①ワークショップ
- ②インターネット等を使い収入を得る体験（物販等）。

※学習時間目安：4日間程度（課題提出有）

3) Financial School

①第1編：経済

第1章1～ 5：経済とは

（BusinessDesign 編【経済とは】を一部振り返り

第2章1～ 4：貨幣経済の仕組み

第3章1～23：日本経済の歴史

第4章1～13：世界経済の歴史

第5章1～ 4：資本主義経済と社会主義経済

第6章1～ 7：政治と財政

第7章1～10：地理と世界経済

第8章1～ 6：様々な経済指標

②第2編：金融

第1章1～ 4：金融市場と金利の働き

第2章1～ 7：中央銀行の役割と金融政策

第3章1～ 8：金融機関の種類と役割

第4章1～ 7：為替の仕組みと役割

第5章1～10：金融関連法の基礎知識

第6章1～41：社会保障制度と保険

第7章1～ 9：外国為替証拠金取引（FX）

第8章1～11：暗号資産※デジタル通貨偏に統合予定

③第3編：資産運用

第1章1～31：資産運用を始めるにあたって

第2章1～54：投資商品の判断基準

第3章1～ 9：ポートフォリオ組成と実践

第4章1～68：株式

第5章1～25：債券

本著作権は、ATDNGTにあります。無断複写・無断転載を禁じます。

- 第6章1～27：投資信託
- 第7章1～12：ETF・VIX
- 第8章1～ 4：NISA・iDeCo・DC
- 第9章1～12：コモディティ・デリバティブ
- 第10章1～22：国内不動産
- 第11章1～18：海外不動産
- 第12章1～51：タックスプランニング
- 第13章1～27：相続・贈与

④第4編：デジタル通貨（暗号資産：ブロックチェーン）
第1章1～5

⑤シュミレーション（過去（結果）と未来を観る事の実践）

【実践に関する詳細運用は『投資実践編別紙』参照】

Financial Schoolは動画配信（米国等では高校生で一部学ぶ内容。
注意）2022年度から国内で始まる高等教育家庭科での金融教育内容
により、Financial School内容を必要に応じ見直しする場合有。
（ファイナンシャルプランナー監修）

※学習時間目安：生徒自ら6カ月以内で学習。

推奨学習方法：全体ストーリー（特に『経済』の移り変わり）を掴
み、個別にステップアップ。

15～20分/日 毎日（1動画づつ）行う。

気分が乗らない時は30秒だけ復習。

視覚で学習したら音声だけ聞く。

学習した事はインターネット等で調査・確認する。

※身近な出来事や企業について調べ考察する。

※学生の場合、将来的な就職活動にも有効。

4) 修了証について

人材育成偏卒業生は、次世代アカデミーの『修了証』を発行致します。

(5) 共通事項

【人材育成偏】

- ・生徒自身の未来について Learning Design を描けるよう思考力を醸成
します。

（高校生で受講する場合、大学生以降に必ず振り返る事を強く推奨。大
学生でも社会人生活或いは人を育てる（子育て含む）場合、振り返りを強く
推奨します。社会人の場合は職場等で学んだ事を振り返り実践することで
より豊かな人生を送れる状態になれます）

- ・当アカデミー卒業時のヒューマンスキルの獲得状態

本著作権は、ATDNGTにあります。無断複写・無断転載を禁じます。

- ① 小学生、中学生向けに簡単なスポーツ指導が出来る。
- ② 自らの自己研鑽継続により更に成功マインド化する。
- ③ コーチングレベルが向上。
- ④ 学習塾講師（仮想定として大学生時代に行う）のアルバイトを行う場合、講師スキルが向上（学習塾の教育システムがより理解出来、自信を持って学習塾の生徒に対しアウトプットが出来る状態）
- ⑤ アルバイトをする場合、アルバイト先のマネージャー等が行っている裏側（経営思考）を理解或いは仮説検証レベルが向上（指示された事を熟すレベルではなく、何故、そうになっているかの概念が分かるようになる）。
- ⑥ 人間力の向上。同年代に比べ傾聴力、情報発信力、指導力、受容力等、自然と周りから信頼され、感謝される存在になっている。
- ⑦ 心理的安全性(サイコロジカルセーフティ)の重要性をより理解し、環境作りに配慮が出来るような気付きが得られる。

• 育成期間について

- ① 申込から2年以内で受講完了すること。
- ② 高校生で卒業した場合、**大学1年生**（19歳になる年度末）迄は、生徒からの申し出があった場合**フルサポート（FinanceSchool 偏除く）**させていただきます。

フルサポート環境の提供は、高校生と大学1年生時では、知識レベル、ヒューマンスキルの違いもあることや、大学生生活で得られる実体験をもとにサポートすることで、より Learning Design が描けるように特別に設けさせていただきました。

尚、サポート費用は無償提供としますが、オンラインサロンメンバー登録頂く前提とさせていただきます。

• オンラインサロンメンバーについて

会員費は、甲の運営上必要なサーバー維持費等に充当させていただきます。
（オンラインサポート時の通信費等は乙負担）

- 学習スタイル **micro Learning※1** によるものとし、学びたい時に少しずつ学べる環境を**基本とします。**

※1. Micro Learning は企業研修でも主流になりつつある手法です。

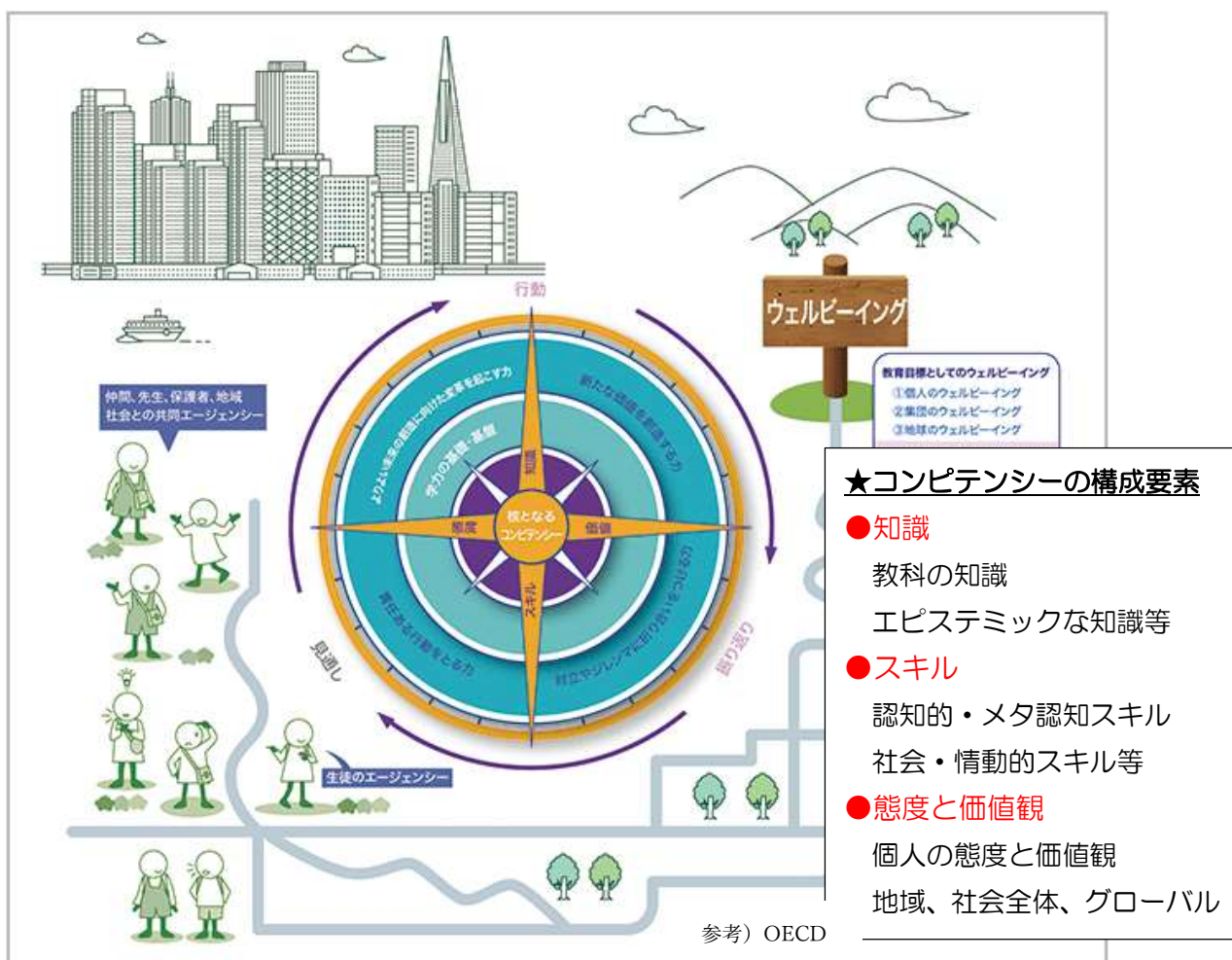
何故、日本でも主流になり始めたかは、働き方改革により、時間に捉われない働き方が日本でも浸透してきたことや、思考した時に行動する方が、よりインプット等が効率的に行える事が学術的に分かっていることも理由の一つです。

・その他

ニューロサイエンス偏や自己啓発分野は生徒（学生の場合）の学校での専攻状況により馴染みが余りない分野かと思いますが、動画学習と音声学習をすることで高い成長が達成可能と考えています。

尚、繰り返しになりますが社会人生活で再度振り返りを推奨します。

- ・ 学生時代のスポーツへの取り組み方から、Business 偏、そして FinancialSchool へと繋げることで、幅広く興味を持たせる事を意図とし、その中から生徒自らより能動的に興味を持ち今後の成長に貢献出来るようサポートさせて頂きます。そして、生徒自ら人生の羅針盤を描く強力な一歩となれるよう努めます。



(6) その他

保護者・指導者及び関係者向けセミナー（別途有償：家族会員割引対象）

主なセミナー内容

- ・ 人材育成編

本著作権は、ATDNGT にあります。無断複写・無断転載を禁じます。

(セミナー内容は BusinessDesign、FinancialSchool を除外した内容)

※受講対象者目安

→指導者・管理職（保護者含む）レベル：初級者～中上級者向

- スポーツにおける対人スキル向上（人材育成プログラム）
各協会等の（スポーツ）指導者や各種スポーツスクール等が提唱もしている【スポーツを通じて社会性スキル向上や、礼儀・感謝等を育てます。】といった観点に【何故】なるのかを人材育成上の観点からご案内させていただきます。
- その他、人材育成上のご相談（社会人対象）も対応可能ですので、ご要望がある場合は別途ご相談下さい。

※イメージとしては、企業の人財開発を目的とした人事研修です。

得意分野：ダイバシティマネジメント、プロセスマネジメント

※企業の管理職向けに行われている【育児休暇後の職場復帰研修】等について心理学の観点から解説。

これであなたの職場も心理的安全性が確保され、生産性向上の土台が作れます。

●運動学習の参考●（以下、人材育成偏で触れる内容です）

- | | |
|--------|-----------------------------------------------------|
| 自己効力感 | ⇒自ら選択し、決定する過程（課題）を与え、PDCA を廻す対人スポーツをする事で自制心がより育ちます。 |
| グループ心理 | ⇒一人より他者と共同して行う、或いは他者と競争して行う方が、課題遂行能力が向上 |
| 共感と激励 | ⇒励まし、期待、関心を持つ効果を形にして体感させる |
| 運動機能 | ⇒時間認知と空間認知能を向上させる事で集中力や社会性を養う |
| 脳科学 | ⇒運動、各知覚、記憶・学習データフローに従い、運動プログラムを構成 |
| 医学 | ⇒成長過程における体の仕組み（解剖学入門） |
| 発達心理学 | ⇒発達段階による心理的成長（変化・認知等）により、自分発見することのアイデンティティ確立 |

本著作権は、ATDNGT にあります。無断複写・無断転載を禁じます。

等々

上述の運動学習事項を学ぶにはそれ相応の学習時間と自己投資が必要になります。そんな皆様向けに当アカデミーをご利用頂き子育て、部下育成や自己啓発等にお役に立てれば幸いです。

脳科学については、数学的なアプローチやロボット工学、医学分野への展開（事例）を踏まえこれからの時代を担う人材育成の一助になるようプログラムを構成しました。

又、保護者の方々は多種多様な職業に従事されていると思いますので、ご自身の仕事やこれからのリ・スキルといった点でもお役立て頂ければ幸いです。

人材育成編の各種セミナーは世界最大の人材育成団体、ATD※（Association for Talent development）が発信している世界的潮流等を注視しながら、適時内容を見直しさせて頂き、時代にマッチした内容に務め learning design をご提案させて頂きます。

※ATD は当代表が定期的に情報収集（学び）しているものとなります。

ATD参加者は各国政府関係者、教育機関関係者、人材開発会社等、国の教育や発展をどうするかなどを担う人達が参加しています。

以下、参考

●人材育成編の先（社会人向けの内容）の AI 時代予測社会●

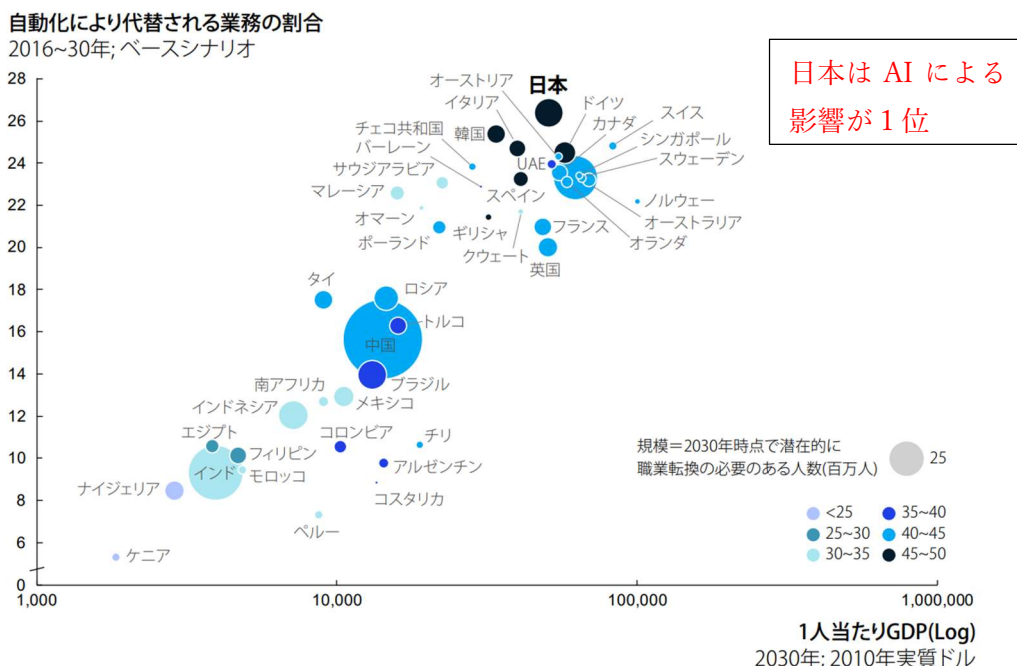
↓↓↓↓

●人材育成編の先（社会人向けの内容）の AI 時代予測社会●

AI 先進国の企業レポートより『2030 年グローバル労働トレンドのポイント』

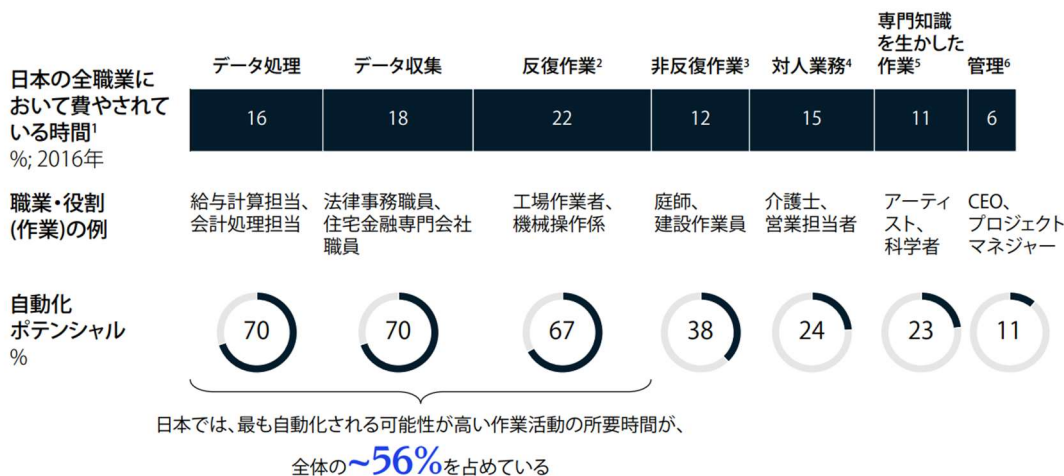
- ①3割（3億7, 500万人分）の仕事が AI の進化で人間から機械に移る。
- ②増える仕事内容は専門性を活かす、ステークホルダーに対応する、人間をマネジメントする、といったヒューマンスキル。
- ③減る仕事は計算資源で賄えるもの。

日本における「自動化」の適応可能性は、世界各国と比較しても最も可能性が高い

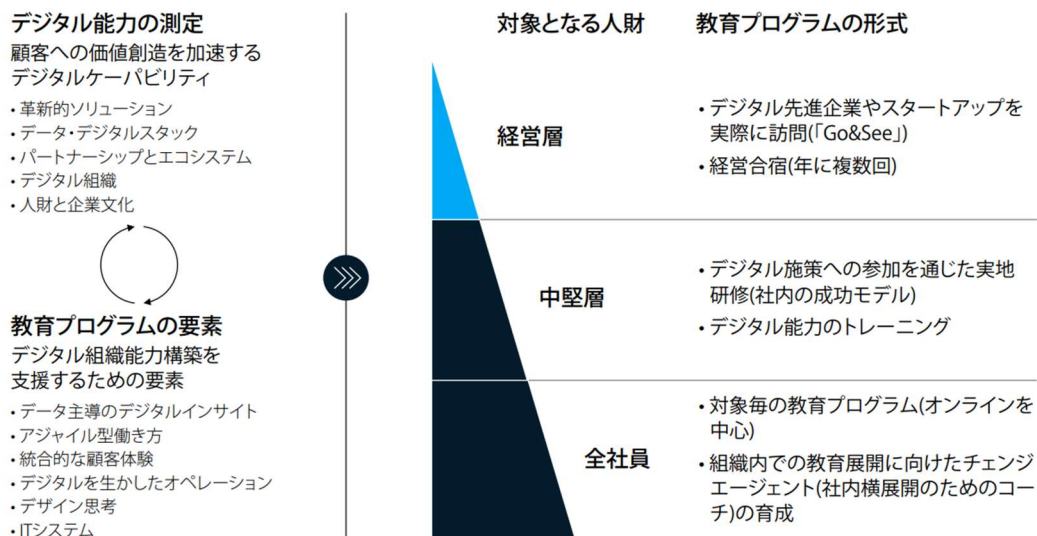


資料: World Bank, Oxford Economics, McKinsey Global Institute analysis

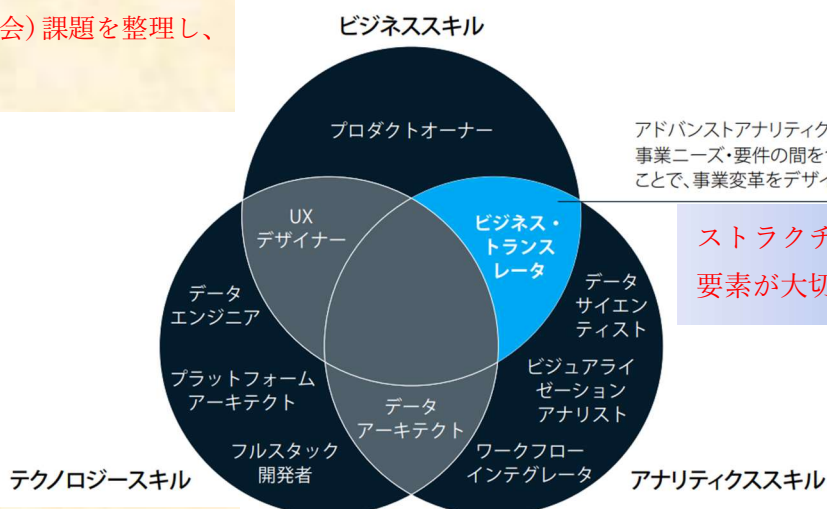
日本では、反復型のルーチンワークに費やす時間が56%を占めており、そのうち技術的には67%以上に自動化できる可能性が存在



¹ 四捨五入のため合計は100にならない
² 予測可能な環境で手作業により機械を操作
³ 予測不可能な環境で手作業により機械を操作
⁴ 様々なステークホルダー (例: 消費者、取引先)と接触
⁵ 専門知識を意思決定、戦略策定、クリエイティブな仕事等に活用
⁶ 人材管理・育成
 資料: ONET, Statistics Japan, MGI Automation Model May 2019, McKinsey Global Institute analysis



課題背景を理解した上で、
Business (社会) 課題を整理し、
解決する力



データサイエンスを意味ある形に使えるようにし、実装、運用出来るようにする力

情報処理、人口知能、統計学等の情報科学系の知恵を理解し、使う力

● AI 時代でも重要な要素を紹介します (超有料級の情報を特別に紹介します) ●

・人間とは何者なのか、どのように振舞うのか (理解する)

★世界の超一線級脳科学者 (オックスフォード大学ニック・ポストロム他多数! が語り研究しているものです。(ネット上で色々検索出来ますが、世界的な脳科学者達はもっと本質部分なので奥が深いです。)

・判断力を鍛える

・楽観的に生きる

以上

初版 2022年1月1日

本著作権は、ATDNGT にあります。無断複写・無断転載を禁じます。